

稲沢市6月議会

市独自の物価高対策を求める

服部市議「お米券」発行、給食費無料に

稲沢市6月議会が開かれ、13日の一般質問で日本共産党服部俊夫市議は、稲沢市としての物価高騰対策や国・県への要請、稲沢市民病院の充実について、市の見解を糾しました。

小学校給食を無償化に

【服部】市内中学校は、4月から無償となっていますが、小学校は2分の1補助にとどまっています。来年度以降検討すると思っていますが、実施のメドはどう考えていますか。

【教育部長】国の動向に合わせて

て、来年度からの無償化を検討しています。

修学旅行や制服代の補助

【服部】「国の動向」ではなく、「市民のために」検討すべきです。どちらの目線に立っているか疑問に思います。修学旅行や制服代などの負担軽減は考えていますか。

【教育部長】

就学援助として、修学旅行の上限額を設定し、小学校2万2690円、中学6万9100円を補助。制服は新中学1年生の就学援助に1万円を増額しています。

6/7 テレビ朝日「ワイドスクランブルサタデー」から

【服部】物価高や人件費の高騰で、いま全国の病院の6割以上が赤字になっています。今こそ、公的支援が必要です。コロナ禍以後の経営状況を説明してください。

【病院事務局長】新型コロナウイルス感染症の流行により、手術の延期や中止、患者さんの受診控え、入院患者数は一時減少し、病院経営にも影響がでましたが、補助金の交付の増加により、令和2年度から4年度までは赤字での決算となりました。現在は、人件費増や物価高騰による経費増の影響が大きく、非常に厳しい状況での病院経営となっています。

市民病院の充実における質問

「儲ける病院」づくりにつながる

民営化や独立行政法人化に反対

【病院事務局長】6月現在の病床数は278床で、急性期病床が91、地域包括ケア病床が87です。地域の医療機関との連携として「登録医制度」を実施しており、303の医療機関が登録医となっています。

病床の開床に合わせて看護師の採用・育成を進め、質の高い医療・看護を提供できるよう努めています。救急患者の受入れの強化を図ることにより、入院患者の増加に繋げており、市内の15の高齢者施設とも連携しています。

【病院長】総務省は「再編統合」から「経営強化」に方針転換しましたが、市民病院は民間でできないことをやる。人口減少・少子高齢化で重要性が増します。これからも地域医療を支えてまいります。と考えております。

就学援助は対象が限定されま

す。全体に対する支援策は何があるかと質問しましたが、これには「給食費」と答えました。あまりにも貧弱です。通学定期への補助も考えていません。

水道の基本料金を無料に

【服部】稲沢市は2022年と24年に基本料金無料としましたが、物価高騰のもとで検討されていますか。

【上下水道部長】国からの交付金等の支援があれば、関係部署と調整を図りながら検討してまいります。

【服部】政府の備蓄米の放出が

行われているが、稲沢市として

「おこめ購入補助券」などの発行は検討できませんか。

「お米券」の発行を

【経済環境部長】現在のところ、おこめ券の配布は予定していませんが、物価高騰・消費喚起対策としてプレミアム「いなPAY商品券」を発行しています。

【服部】プレミアム商品券の発行は3万セットで、申し込みが超えたら抽選となる。スマートフォンを持つなど限定的なデジタル商品券ではなくて、おこめ購入補助券を全家庭に配布すべきではありませんか。

【服部】政府の備蓄米の放出が

【経済環境部長】プレミアム商

品券は、お米のみでなく幅広い生活必需品の購入に活用いただけることから、すでに多くの方から申込みいただいています。

農業支援、消費税減税も要求

農業者への支援として、所得補償・価格保障を稲沢市として考えられないかと質問しましたが、市当局は「考えていない」との回答です。

また、消費税減税、年金引き上げ、中小企業・小規模事業者への直接支援、医療介護の充実を国や県に要望するよう市長に求めました。